

調するものである。

58. 新しい各種 Penicillin 製剤の産婦人科領域に於ける基礎的並びに臨床的検討

(日医大)

真柄 正直, 高瀬善次郎, 直江 光郎

吉田 雄一, 網野 栄作

1957年, 6-Aminopenicillanic acid の合成が成功して以来, これを基にして種々の Penicillin の合成が可能視されるようになった。今回, 我々は抗生物質学術協議会から新しい合成 P C であるところの Methylphenylisoxazolyl PC (MPI-PC) の提供を受け, これについていささかの知見を得たので, 他の合成 P C である Phenoxyethyl PC (PE-PC), Dimethoxyphenyl-PC (DMP-PC) とともにその概要について報告する。またその他, 持続性 P C 製剤の Dibenzylethylendiamindi PCV (DBED-V) についても報告する。

1) 血中濃度

健常人5例について, 枯草菌を検定菌としてカップ法の木村氏変法により検したところ, 経口剤では PE-PC, MPI-PC とともに Peak は投与後2時間で来, その最高濃度は PE-PC, の方が MPI-PC よりも 1 mcg/ml 以上高かった。また P C・G 60万単位筋注と DMP-PC 1gr 筋注とを比較してみると DMP-PC の方が約 2 mcg/ml 高い濃度を示した。MPI-PC を筋注すると他の P C 製剤より Peak になる時間が早く, 約30分で Peak に達するが, その濃度はあまり高くない。持続性 P C 製剤である DBED-V は, 他の P C 製剤の持続が 5~8 時間であるのに対し, 24時間以上の持続が認められた。

2. 羊水中濃度

各 P C 製剤とも 30分~1 時間で羊水中へ移行するが, 一般にその濃度は低い

3. 臍帯血中濃度

DMP-PC 1gr 筋注の場合は健常人血中の約 2 分の 1 の濃度の移行が認められるが, 他の P C 製剤ではこれよりも移行濃度が低く, 1~0.1mcg/ml の間であつた。

4. 悪露中濃度

MPI-PC では筋注, 内服ともに 0.05~0.03mcg/ml の低い濃度であるが, その他の製剤では 0.5~0.1mcg/ml の間の値を示した。

5. 乳汁中濃度

MPI-PC についてのみ測定したが 0.015~0.01mcg/ml の低い移行しか認められなかった。

6. 実験的耐性獲得

黄色ブ菌 (209P株) および嫌気性ブ菌 (Staph. anaerob.) を用い増量継代法を行つたところ, 209P株では6代継代で P C・G が 128倍の上昇をみたのに対し, 合成 P C では 8~16倍であつた。ところが Staph. anaerob. では 8代継代で P C G が 64倍であるのに対し合成 P C では 32~200倍であつた。

7. 交叉耐性

実験的耐性獲得菌を用いて行つたところ, 軽度の交叉耐性が認められる。

8. 患者から分離したコアグララーゼ陽性ブ菌の感受性

P C・G が最も耐性菌が多く, PE-PC, DMP-PC では耐性の上昇が認められるものがあつたが, MPI-PC は耐性の上昇している1株を除き, 全例に強い感受性を示した。

9. 臨床成績

PE・P C は 73% の有効率であり, DMP-PC は 88%, MPI-PC は 81% の有効率であつた。

59. (示) 腔カンディダ症の新検査法について

(日赤中央) 永井 英男

腔カンディダ症は抗生物質が繁用される為か, 最近増加の傾向にあり, 我々の外来でも, 屢々遭遇する様になつたが, その診定は通常分泌物の性状或は鏡検所見によるため不的確な場合が多い。私は Nickerson 培地の特異性並に, Nylander 尿中糖定性検査の原理を応用し, 且つ廉価な次硝酸ビスマス, 炭酸ソーダ並に一般細菌抑制のためのモノフラシンを使用した特殊選択培地 (一種の寒天培地) を作成した。本培地は菌類のみが発育し得る特異培地で, 殊にカンディダは夏期は室温で, 他の季節には体温程度, 即ち培地を上衣のポケット内に保持する事によつて 24~48 時間で白色のコロニーとして発育して来る。この段階で鏡検すれば, すでに胞子を認め診断は確定し得るが, 更にその儘コロニーの変化を追求すると, 78~86 時間でその中心より漸次茶色となり, 4 日目には茶褐色に変色すると云う特性があるので, この時期迄待てば鏡検を要せずして診断を確定することが出来る。この培地の作成方法を述べると, 先ず水 1000cc にペプトン 10gr, 寒天 25gr. を加え, 加温して充分溶解せしめてからブドー糖 40gr. を添加して攪拌溶解後濾過し, 濾液に 0.02% モノフラシン 20cc, 次硝酸ビスマス 10gr. 炭酸ソーダ 1.0gr. を加えてよく攪拌した後, 50cc 宛分注して高压釜に収め, 15 ポンドに達した時直ちに消火し, 徐々に降圧せしめて保存する。実際に使用する時は加温溶解せしめ, 沈澱している次硝酸ビスマスをよ